



～ペルー地震被災者支援・報告書～
 ～ Report of the Charity for Peru ～



2007年8月15日、ペルーで強い地震が発生。マグニチュードは 8.0、この地震によりピスコ市、チンチャ市などで激しい揺れが続き、8月21日時点で死者 540 人、負傷者 15,000 人、倒壊家屋 40,000 戸以上という大きな被害を出し、家を失った被災者は 8万人を超えると推定されています。

長崎大学歯学部留学中のエスペランサ・ラケル・アヨン・アロさんはペルー・リマ出身で、地球館のシェフとしてや国際交流塾の様々な活動にも参加されています。たまたまお母さんのヨルピさんの来日中にこの地震が起きました。実は地震の被害を受けた山間部のララオス村がヨルピさんのふるさとで、1000人ほどの村民はほとんどが顔見知りです。村の建物は多くがレンガ作りでその多くが倒壊、3000メートル以上の高地にあるため寒さも厳しく、余震の影響もあり支援の手もなかなか届いていない状況でした。そこで、このお二人と協力して支援活動を行うことにしました。



ララオス村 - 倒壊した家



2007.11.4 に地球館においてペルーチャリティデイを開催。募金も呼びかけ毎年9月の居留地まつりでの収益金を合わせ義捐金としました。

ペルーチャリティデイ売上	¥ 48,000		
募金	¥ 56,763		
居留地まつり積立金より	¥ 95,237	合計	¥ 200,000

チャリティデイでペルーの話をするラケルさん(左)とペルー料理を作るヨルピさん(右)親子

義捐金は、被災地ララオス村に住むヨルピさんの実の妹さんを通して、ララオス村の村長さんに手渡していただき、直接被災者支援に当てられましたのでご報告致します。

The profits which we will get through these charity was donated to the sufferers through Yolvi's sister who lives in Loraos village .



ララオス村のアルピン村長(左)に義捐金を渡しているヨルピさんの妹さんたち。(中央と右端の女性)



ララオス村の村役場。右から2番目が村長さん。



今回の義捐金で支援を受けることになったララオス村の畜産農家の共同組合。写真の方はチーフ(左)。

被災者の自立を助けるため義捐金で購入した、ミシン2台(写真右上)と紡績機4台(写真右下)。

<お問い合わせ> 〒 850-0911 長崎市東山手町6 - 25 東山手「地球館」・長崎「国際交流塾」
 電話: 822-7966 E-mail: chikyukan@h2.dion.ne.jp